



「グッドデザイン賞」19年連続受賞

GOOD DESIGN
AWARD 2021

オフィスビル「新宿住友ビル」

戸建住宅「プレミアム・J 京都五条」「New J・アーバンコート 二俣川」

共同住宅「シティハウス品川サウス」「シティハウス四谷坂町」

住友不動産株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:仁島浩順)は、財団法人日本デザイン振興会主催の「2021年度グッドデザイン賞」において、下記の5物件を受賞いたしましたので お知らせいたします。なお、今回の受賞により弊社は19年連続の受賞となります。



<ガラスの大屋根越しに新宿住友ビルを見上げる／公開空地「三角広場」>

2021年度 受賞物件一覧

1.オフィスビル「新宿住友ビル」／ 東京都新宿区

公開空地をガラスの大屋根で覆い、「全天候対応パブリックエリア」に再構築

2.戸建住宅「プレミアム・J 京都五条」／ 京都府京都市

日本の伝統的住まいの再構築

3.戸建住宅「New J・アーバンコート二俣川」／ 神奈川県横浜市

光と風を内包する家

4.共同住宅「シティハウス品川サウス」／ 東京都品川区

快適な外廊下を生み出す

5.共同住宅「シティハウス四谷坂町」／ 東京都新宿区

都心密集 集合住宅に風光を導く

<本件に関する報道関係者お問い合わせ先>

住友不動産株式会社 広報室 田中 TEL:03-3346-1042

1. オフィスビル「新宿住友ビル・三角広場」(産業／商業施設 受賞)

当社オフィスビルは、2003年度「泉ガーデンタワー」以来の受賞
公開空地をガラスの大屋根で覆い、「パブリックエリア」に再構築

超高層ビル黎明期に竣工し、初めて200mを超えた歴史的価値が高い「新宿住友ビル」のリニューアルプロジェクトです。

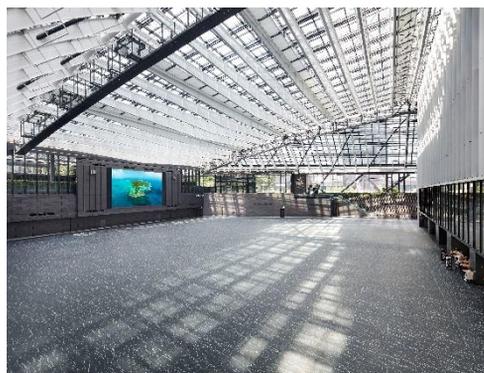
本計画ではリノベーションを主軸とした大規模な改築「リビルド」により、新築を超える「新たな価値」を実現した世界的にも稀有な事例です。既存ビルを利用する約10,000人の活動を生かしつつ、ビル機能を稼働しながらの工事の遂行など、難しい問題を乗り越え、47年間愛され続けたビルに「アトリウム」という新たな起爆剤を加え、次の未来を見添えたアップデートを遂げた「世界的に最もサステナブルな超高層ビル」として生まれ変わりました。



新宿住友ビル・三角広場の3つの特徴

- 1.ビル再生** 今までは公開空地といえば屋外空間が一般的でしたが、本プロジェクトでは「国内初の室内公開空地化」を実現、天候に左右されることがなく地域に開かれた「人々が集うパブリックエリア」として再構築し、三角広場としてオープンしました。
- 2.防災性向上** 新宿住友ビルの特徴を生かした制震モデルを新たに開発、耐震性・制震性を高めます。また非常時には帰宅困難者を積極的に受け入れ、最大約3,000名の一時滞在施設として整備し、防災対応力を向上させました。
- 3.地域活性化** ガラスアトリウムからなる三角広場は天候の影響を受けず、まるで室外にいるような空間でイベントの実施が可能、最大2,000名収容することができ、西新宿活性化に寄与します。

<三角広場>

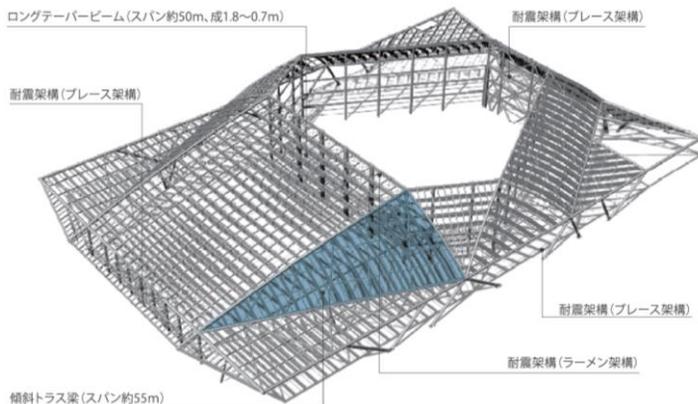


<イベントイメージ>



■無柱大空間の創出

三角広場の大空間を最大限に生かし、長さ140m×幅90m×高さ25mの鉄骨造の大屋根空間にしました。力学的合理性だけでなく、意匠・施工性に優れた大屋根として全体を計画し、北側のアトリウムでは梁下のカーブが特徴的なロングテーパーストームを採用しています。



「レガシーとして継承」歴史的価値を尊重しながら次世代に繋ぐ

■慣れ親しんだ「三角ビル」のレガシーを継承しつつ、未来につながるレジリエントなデザインを施した

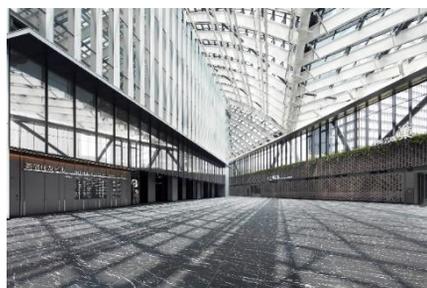
改修前



改修後



■淀橋浄水場のレンガ積の風景を継承しつつ、新たな機能を加えてインテグレートされた内装壁にした



■現在では採掘できない既存赤御影石の素材を再活用し迎賓空間をデザイン



《審査員コメント》

既存建物の改修整備は、様々な制約がデザインをアップデートする際の足枷となり、形態操作をする上で異物を付帯したような印象を与えるケースが多くみられる。ましてや本計画は50年近い高層ビルの改修計画であるが、都市に建つ太い幹が大地に根を張るような力強さを取り戻したとみれば、デザイナーの語る「建物が進化/成長できた」という言葉もあながち間違いではないように思える。一方で、都市の高度利用による経済成長を支えてきた近代ビル群が、温暖化や少子高齢化による社会変動リスクを受け入れ、新たな価値をどのように生み出していくのか。それは、大地（公開空地）との一体化により得られた安全性や快適性という公共財をどのように還元していくのかという問いに集約される。災害時はもちろんのこと、日常時の使い方にも本プロジェクトの持つ本質的な価値がみえてくることを期待したい。

受賞物件 概要

所在地	東京都新宿区	用途	事務所
階数	地下4階、地上52階、塔屋2階 / 建物高さ 210.3m	竣工	1974年3月
構造種別	鉄骨造、地下部は鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造	リニューアル竣工	2020年6月

2. 戸建住宅「プレミアム・J 京都五条」(戸建て～小規模集合住宅 受賞)

日本の伝統的住まいの再構築

古来日本では、住宅建築の知恵により自然環境を制御し、地域交流が活発な暮らしを営んでいましたが、現在は断熱や防犯の観点から「閉ざされた住宅」が一般的となっています。



＜町家の格子を思わせるルーバーを用いた、京都の街並みになじむ外観＞

本計画では、日本の伝統的な住まいを現代的に解釈して再構築し、快適で豊かな交流が生まれる住宅を提案しました。

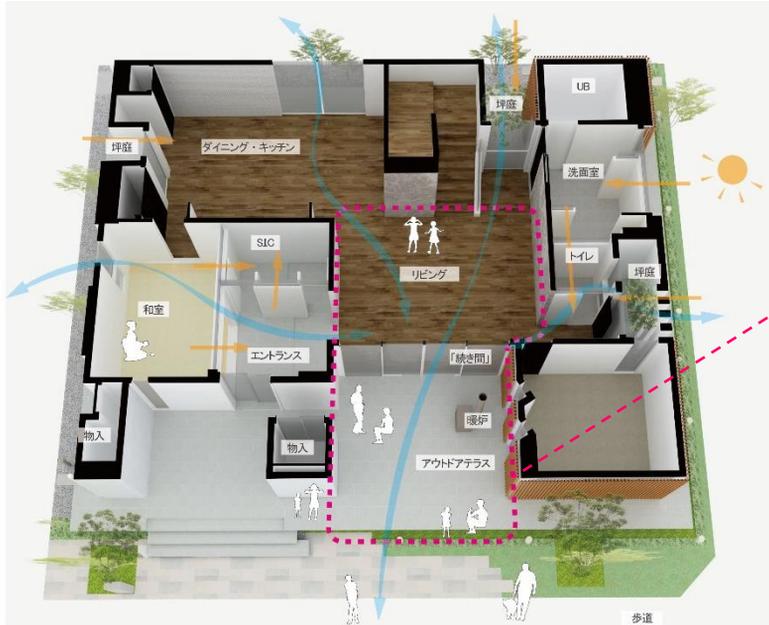
また、太陽光発電での脱炭素も目指すなど住宅でのSDGsの取り組みにより、住まう人に心地よく環境に優しい住宅の実現を目指しています。



曖昧空間がつなぐ、人と人、人と自然

■深い軒や土間空間の活用など、日本の伝統的な住まいの知恵を現代的な形で再構築

かつての民家は部屋が引き戸で仕切られ、家全体が回遊動線となっていました。本件も1階の居室はすべて通り抜けができる回遊動線になっており、空気と光の流れをつくり、人の流れも生み出しています。



＜交流を生む縁側テラス＞

土間・縁のように、人を迎え入れ交流を促す場を作ることによって、地域コミュニティの再生を試みています。多目的なあいまい空間が内外の境界をぼかし、コミュニケーションが生まれ、交流活性化のきっかけになっています。

＜審査員コメント＞

土間や縁側など日本の伝統的な住宅にあった要素が、非常に現代的な形で実現されている点が評価された。特に2階にかけられた大きな屋根が、ゆったりとした気持ち良さそうな半外部空間を形成していて魅力的である。通りに面して設けられた半外部空間も、住人と地域の人とのコミュニケーションを誘発しそうで評価できる。

受賞物件 概要

所在地 京都府京都市下京区
階数 地上2階 / 建物高さ 9.58m
構造種別 木造(軸組工法)

3. 戸建住宅「NewJ・アーバンコート 二俣川」(戸建て～小規模集合住宅 受賞)

光と風を内包する家

昨今の暮らしの変化により家の役割が見直され、「仕事をする」「おうち時間を楽しむ」などのニーズに対応できる家であることが求められています。また、家の滞在時間が長くなったことで、快適性の向上と近隣との繋がりも重要視されるようになりました。

そこで本計画では、半外空間を住居内に立体的に組み込み、多彩なシーンを住まいの中に生み出すと共に、採光・通風を促し、開放感ある快適な住環境を創造しました。また、1階の「土間空間」「コミュニティパティオ」を近隣への繋がりハブとして利用するなど、地域との接点としてのファサードとなり、街に開いた住宅となっています。半外空間を介しての内外の繋がりを大切に、自然を感じる住まいを実現しています。

住まいと街をつなぐ半外空間、街に開くファサードを持った住宅

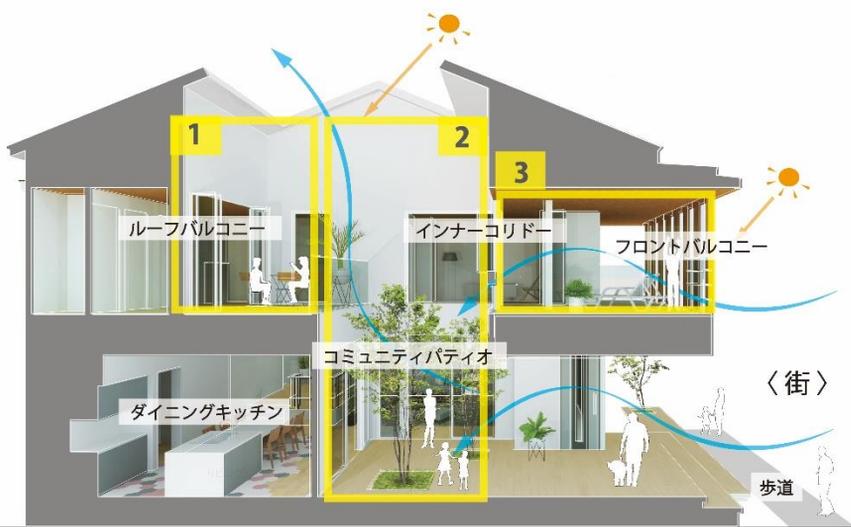


<街に開くファサード>



<フロントバルコニー>

■半外空間を立体的に組み込み、自然を感じる開放感のある住環境を創造



1 パティオバルコニー

プライバシーを守りつつ、開放的な空間



2 コミュニティパティオ

近隣住民との交流
家族の気配を共有



3 フロントバルコニー 大胆に空を取り込み、自然を感じる



屋根に守られる心地良さもあり、程よくプライバシーを守りつつ、豊かな自然を肌で感じ副交感感を刺激する開放的な居場所となっています。

《審査員コメント》

住空間に様々な半屋外空間を内包させた設計手法は、土間や縁を取り込んだ伝統建築にも見られるように、快適でエネルギー負荷の低い空間を実現することのできる魅力的な提案である。このように外に開く住まいを豊かに安全に実現するためには、良質な「外部」が不可欠であることから、この提案の先には、植栽等による外部環境の整備と地域コミュニティとの交流という、街区の美化と活性につながる利他的な波及効果も期待される。

受賞物件 概要

所在地 神奈川県横浜市旭区
階数 地上3階 / 建物高さ 9.98m
構造種別 木造 (WP工法)

4. 集合住宅「シティハウス品川サウス」(中～大規模住宅部門 受賞)

快適な外廊下を生み出す

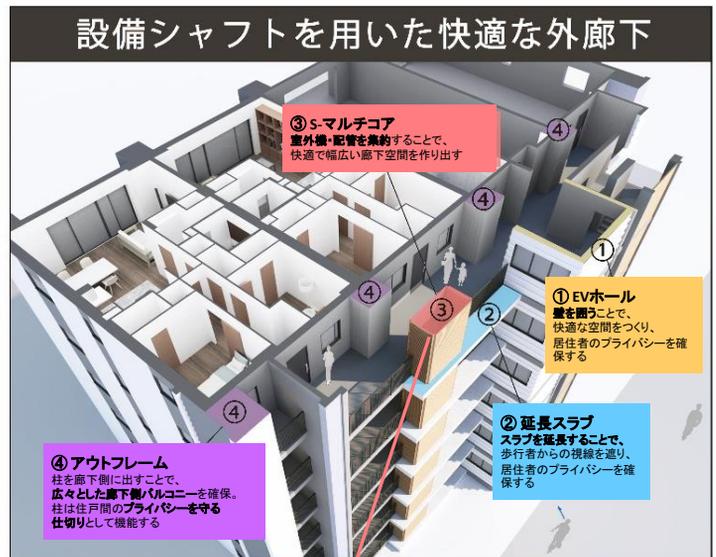
本計画では、外廊下の設備配管に機能的かつデザイン性に優れた『Sマルチコア』を導入し、共用廊下の価値観を大きく変化させました。廊下幅が拡張し、ベビーカー等の利用の快適さが得られるだけでなく、都心のマンションでありながら、近隣とのコミュニケーションが生まれる空間を生み出しました。



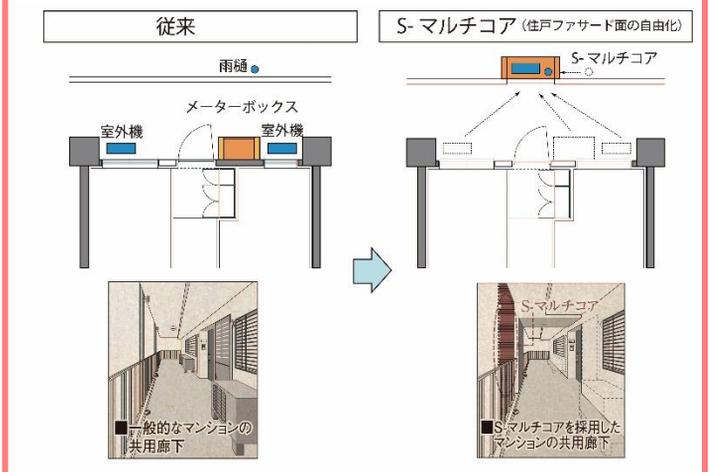
<外観>



<『Sマルチコア』により、幅広い外廊下を実現>



③【S-マルチコア】サステイナブルな設備シャフト



設備シャフトを外観意匠に取り込み、

視線制御を行う工夫

設備シャフトに庇や壁をデザインし、道路レベルから建物内が見えない様にプライバシー性を高める工夫により、外廊下集合住宅の欠点を解消するなど、安全性を高めた建物にもなっています。

《審査員コメント》

従来のマンションでは玄関や窓まわりに設置していた各種配管、メーター類、空調室外機等を、共用廊下の屋外側にマルチコアとして集約。扉のついたマルチコアはすっきりとした共用廊下を創り出し、外観の要素にもなっている点が高く評価された。従来よりも幅広くなった共用廊下には、あらかじめベンチを設置したり、玄関先で立ち話ができるような居場所を創ることもできるのではないだろうか。「居住者に限らず様々な人が利用する集合住宅の廊下は半公共空間である」という応募者の言葉通り、今後も共用廊下から小さなコミュニティを育てる試みを続けてほしい。

受賞物件 概要

所在地 東京都品川区東品川
階数 18階/56m
戸数 66戸

構造種別 鉄筋コンクリート造
竣工 2020年3月

5. 集合住宅「シティハウス四谷坂町」(中～大規模住宅部門 受賞)

都心密集 集合住宅に風光を導く

都心部は建物が密集し、特にマンションでは角部屋以外で2方向に窓を取れることは少なく、本当の意味での自然換気ルートが無く風が通らない状況にあります。共用廊下の窓ではプライバシーの不安があり、一般に内廊下の場合には通風や採光は望めません。隣地と密接する場合、見合いを避け開放できないケースもあります。



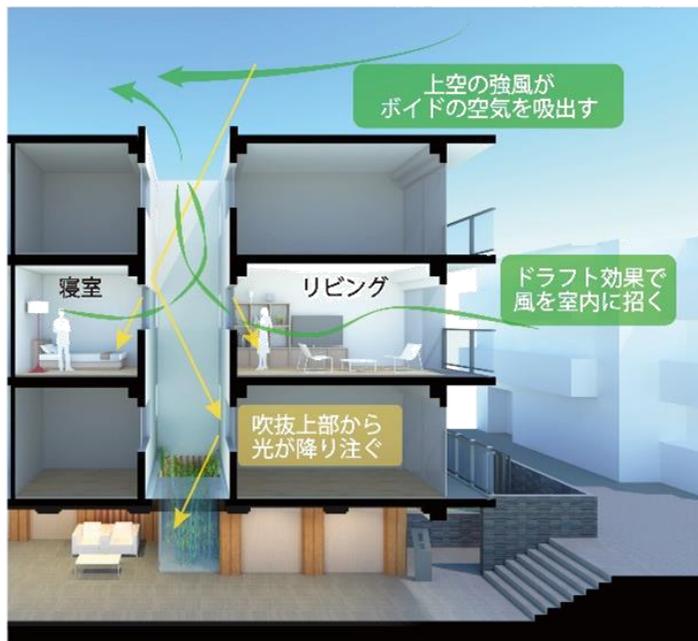
<光と風を導く吹抜のある部屋>

そこで、本計画では中部屋・角部屋の区別なくヴォイドを設け、住戸内に光と風が通り抜けるルートを生み出しました。建物密集でも、住戸の中に「風と光の通り道」を確保し、良好な自然環境を取り込むことを実現しています。



<中住戸室内でも2方向換気を実現>

■建物の各所に吹抜を設け、光と風を導く



<吹抜を介し、光と風が流れるエントランスホール>



<シンボリックなファサードデザイン>

内廊下中住戸でも、光と風が通り抜ける

《審査員コメント》

一般的な共同住宅の開口計画をよくよくみてみれば、無自覚に設けられたものが多くあり、結果あるのに開けない、カーテンで閉じられているものだったりもする。この計画は、通風可能な二面開口を実現している。煙突効果の気流により風を促し、暮らしの中に実感できる通風を実現させている。さらに、コストの制限が厳しい共同住宅において、スパンを8mから7mへと間口を小さくすることでクリアさせている点も評価したい。

受賞物件 概要

所在地	東京都新宿区四谷坂町	構造種別	鉄筋コンクリート造
階数	地上7階、地下1階／23.69m	竣工	2018年9月
戸数	43戸		